

第61回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT) 北海道地方会 開催にあたって



第61回日本心血管インターベンション治療学会 北海道地方会

会 長 木谷 俊介 札幌厚生病院 循環器内科

このたび、第61回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)北海道地方会の会長を拝命いたしました、札幌厚生病院の木谷俊介と申します。開催にあたり、会員の皆様にご挨拶申し上げます。

CVIT2024が札幌で開催されてから、早くも1年が経ちました。全国の皆様をお迎えし、北海道の循環器医療の力を発信できたことは、私たちにとって大きな励みとなりました。本地方会も、その熱気と学びを引き継ぎ、実臨床に根ざした議論と交流の場として、実りある一日を目指しております。

CVIT 北海道地方会は、毎年多くの医療従事者が集い、知識と経験を共有する貴重な機会としての役割を果たしてきました。今回は症例報告を中心に、最新技術の紹介や若手育成にも力を入れ、インタラクティブセッションも多数設けております。研修医やメディカルスタッフの皆様にも、主体的に学び・参加していただけるよう工夫を凝らしました。

当初は演題数が懸念されましたが、最終的には多くの先生方にご協力いただき、予定枠を拡大するほどのご応募をいただきました。皆様の熱意と地域の力の結集に、心より感謝申し上げます。

特別講演には、千葉大学的小林欣夫先生をお迎えし、「誰にPCIを行うべきか —ISCHEMIA, PREVENT 試験から考える」と題してご講演いただきます。先生の豊富な知見と臨床経験に基づくお話は、今後の診療の指針となるものと存じます。

医療技術の進歩により、診療に関わる私たちが担う領域は広がり続けていますが、すべてを一人で対応するのは難しく、専門性と俯瞰力のバランスが求められています。高齢化や多疾患併存により病態は複雑化し、柔軟な視点と全体を見通す力が、日常診療でも重要になっています。こうした背景を踏まえ、本地方会では、症例を通じた実践的な議論や、多職種による視点の共有を重視し、実臨床のなかでどう活かすかを考える場としたいと考えております。

本会が日常臨床のヒントを得られる場であり、専門性を生かしたチーム医療の在り方や、次世代の育成について改めて考える契機となることを願っております。皆様のご参加と活発なご議論を、心よりお待ち申し上げます。